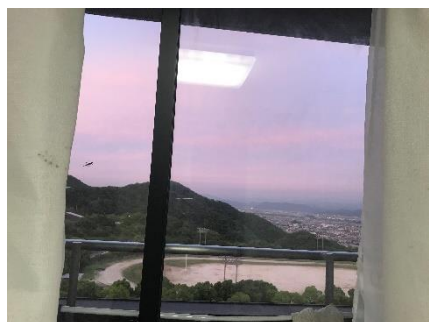


窓から見た和歌山の景色

ヌンニタ ラティファー アズハル
日本語・日本文化研修留学生 インドネシア



和歌山の印象を聞かれたら、自然に恵まれている魅力的な景色があるところだと答えます。それはここに来た他の留学生と同じような答えだと思います。何回も、自分が無意識に部屋の窓から夕暮れの空を眺めているのに気づきました。まるで、自然には魔法の力があり、私の魂を捕まえているかのようです。私は十階にある部屋の窓から見ている和歌山の景色の虜になってしまいました。

このまま時間が止まって永遠に過ごしたいと思うほど恋をしてしまいました。しかし、新型コロナウイルスの影響で状況が変わって、緊急事態が宣言されました。隔離授業が始まり、自分の部屋に引きこもっています。それ以来、あることが前からずっと変わらないことに気づくようになりました。

淋しいです。

淋しいというのは、よほど綺麗な景色に惚れてしまった私はどうして淋しいと感じたのでしょうか。皮肉なことです。恋をしている人は淋しさなどを感じないと思います。それを思うと私はかなり運がよかったほうです。和歌山の景色の虜になってしまう機会がありませんからです。それなのに、どうして淋しく感じているのでしょうか。

人間の感情は大変複雑で理解し難いものだと分かってきた私は、自分の淋しさを理解できるように、絵画に描いてみました。絵画の中に座っている猫が見えますか。私は目が見えて座っている猫を描きましたが、その猫は盲目のように周辺にある感動させるほどの美しい景色を見ないふりをしています。折角その周辺にある景色を見えることに感謝もせず食欲な猫で、ただ遠くにある小さな赤い門を淋しい眼差しで見えています。その門をみて、「淋しいから、今の状況を変えてくれ」となにもしないで、永遠にないものを願っています。そうです。私も、その猫と同じく、今の淋しい状況を何とか変えたいと願っています。



毎回、部屋の窓から和歌山の景色を見て、感情が溢れるほど無茶苦茶になりました。淋しくて、景色の美しさをほとんど見ないようになりました。空しい愛情でした。和歌山の夕暮れの景色に恋をしてしまったのに、まだ物足りないと感じました。空しい愛情は、今

貪欲という罪悪感も混じっています。なぜかというと、今私が見ている景色を見ない大学生が大勢いるかもしれないという思いがあります。私のように、奨学金をもらいたいとおもうインドネシアの大学生が全力で努力したにもかかわらず、能力がない私にその機会を奪われてしまいました。奪ったにもかかわらず、私は感謝などをせずに淋しさを感じています。また、今の状況では、インドネシアは日本に比較すれば医療があまりに進化していないので、インドネシアにいる人々が私よりもはるかに不安を抱いているのだらうと思います。しかし、私は和歌山で最高に安全に暮らしています。その不安を比べると、私は一人暮らしをしているだけで淋しく思うのはとんでもないことです。

そうか。淋しさを感じているのは、自分が今の幸運をよく感謝をしていないことからくる罪悪感が原因だから、自分が楽しく日々を過ごせるようにしようと決めました。楽しく過ごせば、自分の充分幸せな人生に感謝を感じられると思いました。だから、飽きちゃうほど一人で必死に楽しいことを探していました。楽しく日々を過ごしたいなら、自分でその楽しさを手に入れればいいと思います。しかし結局、状況に変化がないことに、楽しいことは見つからず、「これ以上何が欲しいの」と不満ばかりで、自分が窓から見ていた景色も嫌いになりました。自分の淋しさを思い出させた景色は、まるで別れた恋人の面影を見ているかのようで、完全に無視するようになったのです。私みたいな貪欲な人なんて、このような贅沢な生活を享受できるはずはありません。

しかし、どうして私は淋しさを感じているだけでこんなに恥ずかしく思うのだろうか。何事でも喜怒哀楽の感情とは人間の一部だと分かってきました。自分の感情を無視できるものではない、それに、何も感じていないほうが人間ではありません。なぜか私は新型コロナウイルスの影響で大変な状況でも、海外の一人暮らしで遅く日々を過ごせるのに、淋しさを感じているだけでは恥ずかしくて、不正行為を犯してしまったかのように重く反省しているのでしょうか。

私は気づかずに、自分を他の人の状況と比べまくりました。窓からの美しい和歌山の景色を見るだけで、私はどんなに他の人のことを心配しているのかが理解できました。他の人の事を心配する心を持つ人は、貪欲な人にはならないと思います。私はただ、皆が平等に幸せな人生を送れる世界を作りたいという理想的な考えを持っています。しかし自分の淋しさという感情を認めないほうが、恥ずかしく思うはずです。窓から見た和歌山の景色は、自分の淋しさを知らせてくれる記憶になりました。しかし、そのような景色は、私だけが知っている景色でした。

前よりもう少しだけ素直に生きたいと想うようになり、気づいたら私は窓から見た和歌山の景色がさらに愛しく想うようになりました。

Wakayama view that I saw from my window

NUNNITA LATHIFAH AZHAR
Japanese Studies Student / Indonesia

I found myself that I have fall in love with Wakayama prefecture view that I always saw from window of my room, which is located in the ten floor s of building, but I still found myself being lonely. And what is worst is, I do not know whyi was feeling lonely.

So I try to express it in a picture that I draw. Can you see cat in there? I drew a cat, with two eyes opened but wont see the beautifulness of scenery around it.looking at a red gate wanting to change the situation in loneliness. That cat is me.

And I felt embrassed, knowing that there is so many students in Indonesia that want to get scholarship program just like me. But here I am,feeling alone and not being grateful. So I was trying my best to enjoy my life but I am unable to do that, and I became so frustrated. I have come to realised the reason I became so frustrated is because of I cared about others too much, and that feeling would not make you to become a greedy person.

I'm just having an ideal thought about wanting a world that everybody can live with happiness, an again, the view of wakayama making me remember what kind of a person I am.

I want to live a more sincerer life and I found myself in love with the scenery more than ever.

Pemandangan Wakayama yang saya lihat dari jendela

NUNNITA LATHIFAH AZHAR
Mahasiswa Studi Jepang / Indonesia

Saya jatuh cinta, saya berharap untuk bisa terus hidup melihat pemandangan yang sama. Akan tetapi, seiring dengan kondisi yang berubah saya menyadari satu hal.

Saya kesepian. Kesepian.

Saya begitu serakah karena saya dapat menikmati pemandangan senja, akan tetapi saya masih merasa kekurangan Saya bertanya dengan frustasi 'mengapa saya merasa kesepian?' dan mulai membenci pemandangan wakayama yang saya lihat dari jendela. Pemandangan yang mengingatkan saya akan kesepian saya.

Akan tetapi, Kenapa saya harus merasa bersalah terhadap rasa kesepian yang datang ketika saya bahkan tidak ragu untuk melewati masa genting seperti sekarang?. Pemandangan yang saya lihat dari jendela, pemandangan yang tercemari dengan rasa sepi. Akan tetapi pemandangan seperti itulah yang saya dan hanya saya lihat.

Saya berjanji tidak akan membohongi diri saya lagi, dan Ketika saya sadari saya semakin jatuh cinta kepada langit senja dari balik jendela.